

順正寺報 第八号

永代経 御案内

記

風薫る五月、貴家皆様には御健勝にてお過ごし
の御事と存じます。

さて、例年の通り下記により「永代経法要」えいたいきょう
を厳修します。

「永代経法要」とは、「私」が子供や孫そして
子孫の幸福を願うと同じ様に、「私」に幸せて
有って欲しいと願って下さっている御先祖に感
謝の思いを込めてつとめる大切な行事です。

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい
忘れていた御先祖のお陰に気付き、おとうんほうしゃ 仏恩報謝の
ひときを共に過ごしましょう。

萬障繰合せ御参詣下さい。

五月十七日(日)午後一時

法説叙社 (衆僧供養)

法話 おおときき その他

※当山順正寺では永代経志を左記に定め、過去帳
に記載し永代供養致しております。御希望の方は、
住職迄お申し出下さい。

◎永代経 (祥月命日読経) 金、壹拾萬円也

◎特別永代経 (毎月命日読経 祥月命日特別読経)

金、参拾萬円以上

以上

壇信徒徒各位殿

順正寺 住職

永代経を迎えるに当たって、感じる事を一言

江口 貫 照

私自身の上で、あるいは子供、孫の上で先祖から相続させられたもの、数多くありますが、例えば「江口」という名字。これも代々受け継がれてきたものです。寺に生まれ、寺に育ってきた者の一人として、そういう先祖から相続させられたもの一つ一つが、「永代経」にちなんで思い起こされます。

先日、三人目の孫が生まれました。娘夫婦から、「名付け親になってくれ」と頼まれ、二番目の孫の時にはそれほど抵抗もなく名前を付けたのですが、三番目の、今度の子供の名前を付けるに当たって、フツと気が付いたことがあります。

名付け親の厳しさというものであります。それはどういうことかと申しますと、日本の戸籍では一度名前を付けると、よほどの理由がない限り、改名という事が認められて居ない。ですから、私が生その子の名前を付けたということは、その子は「その名」を一生背負っていくことになる。三番目の孫に名前を付けるということとなって、二・三日悩みました。「あれが良いんじゃないか、これが良いんじゃないか」と悩んだあげく、『玲瑛』という名前にしました。名前のいわれは色々ございますが、私なりに、一生の幸せを願って付けたものです。江口家は代々「貫」という字が名前に使われています。「貫く」という「貫」。私の祖父が「貫之」、父

が「貫成」、私自身が「貫照」、息子が「貫正」と、ずっと

「貫」が付いておる。この親代々受け継がれてる、「貫」という字、「貫く」という字の中に、先祖の念いが籠っているようにも感じられます。どういふことかと申しますと、私の名前は貫照と申しますが、この名は母方の伯父が付けてくれた名前です。『貫き照らす』という意味が有ります。小さい時から、母や、あるいは周りの人から、『人生を貫き照らす。何事であれ、とにかく一生懸命に生きて、貫き照らすような人になれ。』というような意味合いで私の名前を聴かされてきました。ところが、先年、私の名付け親の伯父がなくなりましたときに、閃いた憶いがあります。それは何かと申しますと、『貫き照らすような人になれ』という願いを込めて付けてくれた名に、特に伯父がなくなってから感ずる事は、『自ら』が『貫き照らすような人』に成るのではなくて、遠く先祖を含めて、もっと大きく言えば、『佛』から『貫き照らされている自分』というものに憶いを致すわけです。『貫き照らす』のでなくて、『貫き照らされている』自分。それが結局は、御開さん(親鸞聖人)以来、『念佛を唱える身になってくれ』という『佛の願い』が、遠い先祖から私まで、『貫き照らし続けられてきて、また、子孫に至るまでも貫き照らされていく』という、そういう自分の名前の中に物凄い大きさ、重みがあります。最近は感じてきています。

名前というのはそういうような意味が有るのではないでしようか。とくに、佛は、『我が名を称えよ』、『称えた者必ず救う』と、こうおおせられて、『南無阿弥陀仏』と名のつて下さっておる。この念佛を称えることによって全ての人が、もちろん私も含めて、全ての人が救われていく。そういう救われていく願い、救われていく保証、そういうものがこの名前の中に籠っておる。

かつて、日本の歴史上に自分の名前に『阿弥』を付けた人がいるんです。「観阿弥」（能楽の基礎を確立）とか「世阿弥」（能楽の奥義を極め、様式をかたちづける。）とか。伝説によると、何故自分の名前に「阿弥」を付けたかというところ、その当時、浄土信仰の中で、人は一度は必ず死ぬと地獄に行き、地獄で閻魔さんの前で裁判を受ける。裁判を受けて自分の生前の業うごに付いて色々審査され、その結果、次に行く世界が決められる。例えば、欲の深い人は「餓鬼道へいけ」とか、年がら年中喧嘩してきた人は「修羅道へ、喧嘩ばかりする世界へ行け」と、そういうように生前の業に従って閻魔さんが判断し、お前はこの地獄、あちらの地獄、お前はここと振り分けて下さる、というような思想が有った。そのときに、まず人名帳で、「お前の名前はなんていうんだ」と、裁判ですから聞かれるわけです。その時、「はい、私は世阿弥でございます」と答えた途端、阿弥陀仏の名がそこに入っている

ものですから、閻魔様の裁判以前に、名乗った瞬間に極楽浄土に生まれられる。阿彌陀さまの名を名乗った。だから、自分の名前に「阿弥」を使って『世阿弥』と名乗った。と、伝えられております。これは逆に言えば、阿彌陀如来の救いというのには『この世ばかりじゃなくて、地獄の底まで手が差し延べられているということの証明だ』と、こう言っているんじゃないでしようかね。そういう『大きな救い』に照らされて居る『自分』というのが、『貫照』の意味だと、そういうふうには私は自分の名前の中で感ずるんです。だから、今度孫の名前を付けるに当たって、いずれ本人が自分の名前の意味について、色々憶いを致すことがあるだろうが、私の、

「その孫が幸せであってくれという願い」と同時に、いま言ったように、先祖から受け継がれてきた大きな願い、おじいちゃんの願いを通して、もっともっと大きな先祖からの願いというものに自らが包まれている自分だということを感じてもらいたい、そういう願いで『玲瑤レイヤウ』と名付けたのです。

『永代経』といいますが、当然、御先祖供養の御法要と皆さんお考えでしょうが、もちろん、それは大きな意味を持っています、同時に、また、自分自身のために、あるいは又、自分の子供、自分の孫のための『永代供養』だと、そういうような過去・現在・未来を貫く仏の願いのうえでの受け止め方をしていただきたい、こう思う次第です。 以上

母へ

お母さん

あの日、あの時のあなたの笑顔

あれが、私に見せてくれた最後の笑顔：

だれが予想した事でしょう。

ほんの少し語り合ひ、嬉しいと喜んで、

ほほえみを私一人に見せてくれた

最後のあなたの安らぎだったのでしよう。

お母さん

私は忘れません。あなたに頂いた沢山の御恩と

あなたが私にして下さったように

我が子 我が孫に

これからは、私も、そうしていくでしよう。

お母さん

心配しないで。私は幸せ。

それが私からあなたへの、ほんの少しの思返し

そして、何時の日にか、あなたの待つている、

父母の待つ、お浄土へ、

生まれ帰りたい。帰らせて頂きたい：

江口久子

『白色』白光の△云』御案内

五月の「白色白光の会」は、左記の通り執り行ないます。

記

◎日時・五月二五日（月）午後一時より

◎会処・順正寺本堂

尚、今秋には、越後路へ一泊二日の旅行会を計画して居ます。会員は随時募集して居ます。詳しくは当寺までお問い合わせ下さい。

二月より執り行なわれております、当寺の増改築に当たり、4月30日現在、〔293軒〕の皆様は御喜捨頂いております。ここに告致します。

檀信徒皆様には多大の御迷惑、御理解、そして、御協力を賜り、深く感謝しております。お陰様で、客間の増改は一通り仕上がり、本堂の増改築も順調に進み、予想以上に素晴らしい出来になりそうです。ぜひ、完成を楽しみにお待ち下さい。合掌

〒177 東京都練馬区石神井町三の十七の四

03 (3996) 2064

順正寺